

西洋なし「ラ・フランス」の摘果法

－わい性台木（クインス台）使用樹の摘果時期－

（果樹部）

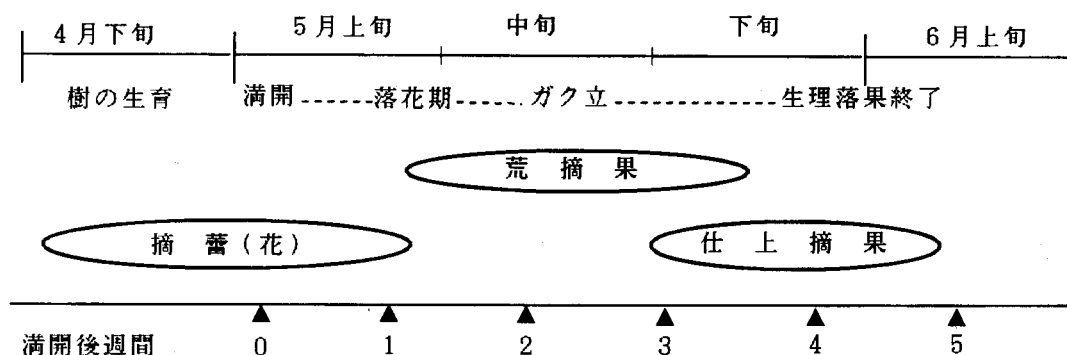
1. 背景とねらい

高級生食用果実として需要が高い「ラ・フランス」はクインスAと中間台を組み合わせた台木を使用したわい化栽培で普及を奨めている。果実肥大促進など高品質生産のため、摘果強度については、平成5年度の指導上の参考事項とした。

今回は、摘果時期について検討した結果、知見が得られたので参考に供する。

2. 技術内容

1) 摘果時期



第1図 摘果作業の実施時期の模式図（岩手園試の生育を参考にして作図）

仕上摘果の終了の目安は、生理落果がほぼ停止する満開後5週間頃とする。

2) 摘果時期が遅れると果実の肥大に影響するばかりでなく、満開後7～9週間は翌年の花芽形成期となるため、摘果はそれ以前に終了する。

3. 指導上の留意事項

- 1) 摘果は摘蕾や花摘みと組み合わせて実施し、荒摘果と仕上げ摘果を基本とするが、仕上げ摘果後も生育不良果はそのつど摘み取る。
- 2) 摘果の強度については、平成5年度指導上の参考事項を参考とする。

4. 成果の具体的数字

第1表 摘果時期・摘果方法と果実品質

(岩手園試、1994)

処理区	仕上摘果 実施時期 満開後週間	平均果重(g)	糖度(%)	酸度(g/100ml)
①荒摘果+仕上摘果	5(5/24, 6/9)	208.7	14.3	0.20
②仕上摘果	3(5/24)	209.5	14.9	0.22
③仕上摘果	5(6/9)	207.8	14.5	0.19

試験の条件

供試台木；クインスC

荒摘果；1果そう1果として実施、実施時期は満開後3週間

仕上摘果；70~80枚1果程度の摘果強度で実施

糖度；屈折計指数

酸度；リンゴ酸換算値

第2表 わい性台使用「ラ・フランス」の生理落果

(岩手園試、1994)

側枝NO	全落果 果そう割合(%)					果数落果割合(%)				
	1	2	3	4	平均	1	2	3	4	平均
無処理 樹N01	12.8	39.1	33.3	17.5	25.7	67.0	80.7	83.1	75.4	76.5
2	17.1	42.9	58.3	55.0	43.3	79.4	87.6	86.4	89.4	85.7
3	4.5	17.5	5.0	2.5	7.4	60.0	72.3	70.5	72.1	68.7
				平均	25.4				平均	77.0
1果 樹N01	27.0	45.5	56.4	13.9	35.7					
そう 2	25.6	15.4	46.8	42.3	32.5					
1果 3	28.6	25.5	41.7	18.2	28.5					
				平均	32.2					

試験の条件

供試台木；クインスC

調査；6月9日に実施

処理；1区3樹、4側枝を供試、1果そう1果区は5月24日に処理